

今月の技術対策 (畜産編FAX情報)

留萌農業改良普及センター・留萌地区農協酪農畜産対策協議会

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp



その他情報も
HPで公開中!

生産抑制時の技術対策⑥

～粗飼料分析に基づく飼料給与～

飼料の高騰が続き酪農経営が厳しい状況となっています。粗飼料の栄養価に応じてバランスのとれたエサを牛に与えることは、無駄な飼料費を削減することに繋がります。是非、粗飼料分析を活用した飼料給与を心がけましょう。

1 粗たんぱく質 (CP) が低い場合

【対策例】たんぱく質を多く含む飼料を給与。

○配合飼料の銘柄を変更 (例: CP 18% → 20%)

○ルーサン乾草、大豆粕など (図1および2)。

2 TDNが低い場合

【対策例】NFC (糖・デンプン) を多く含む飼料を給与。

○配合飼料の銘柄を変更 (例: TDN 74% → 76%)

○圧偏コーン、ビートパルプなど (図3および4)。

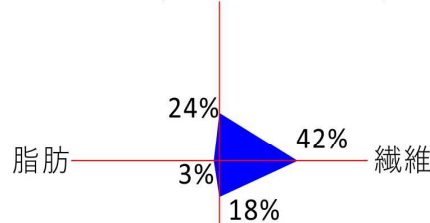
3 中性 detergent 繊維 (NDF) が高すぎる場合

【対策例①】中間飼料 (ビートパルプ) などを給与。

【対策例②】ロールカッター等でラップサイレージや

乾草ロールを牛の口幅より短く切断 (図5)。

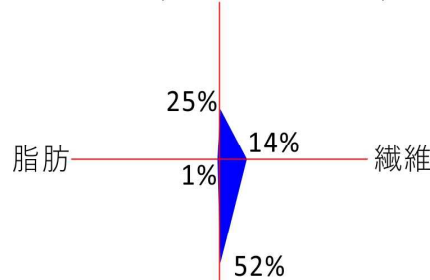
NFC (糖・デンプンなど)



タンパク質

図1 ルーサン乾草

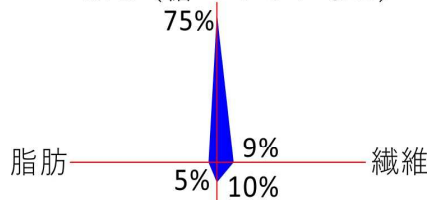
NFC (糖・デンプンなど)



タンパク質

図2 大豆粕

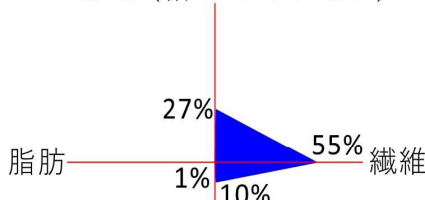
NFC (糖・デンプンなど)



タンパク質

図3 圧偏コーン

NFC (糖・デンプンなど)



タンパク質

図4 ビートパルプ



図5 牛の口幅